

令和元年度看護学部授業評価集計結果

看護学部教務委員会
教育評価・研修部会

1. 概要

岩手医科大学看護学部では、看護学教育の合理的・効果的な実施と教育環境の経時的・合目的改善と外部評価に耐えうる教育の自主的評価の確立を目的として、看護学部第2学年以降に開講する科目ならびに基礎看護学実習Ⅰを対象とした学生による授業評価を実施した。

授業評価は、原則として全ての授業科目を対象とする「学生による授業科目全体に関する評価」、1科目3回以上授業を担当する教員を対象とする「学生による教員に関する評価」ならびに全ての臨地実習科目を対象とする「学生による臨地実習に関する評価」の3項目で実施した。

授業評価実施後は、当該科目における次学期以降の授業計画や学生指導を見据えた振り返りとして、各実施主体者から看護学部長へ「授業に関する自己点検票」を提出したほか、当該年度に実施した各授業評価における上位3科目および3教員については、当該実施主体者の了承を得たのち表彰し、学生へ公表した。

なお、基礎看護学実習Ⅰ以外の看護学部第1学年で開講した科目については、本学教養教育センターによる授業評価を実施した。

2. 実施状況

(1) 「学生による授業科目全体に関する評価」

各科目責任者が「学生による授業科目全体に関する評価」の実施主体者となり、令和元年度に看護学部第2・3学年で開講した全ての授業科目で実施した。

■ 第2学年

No.	学期	科目名	区分	No.	学期	科目名	区分
1	前期	薬理学	必修	10	前期	老年看護学概論	必修
2	前期	臨床心理学	必修	11	前期	小児看護学概論	必修
3	前期	疾病論Ⅰ	必修	12	前期	母性看護学概論	必修
4	前期	疾病論Ⅱ	必修	13	前期	精神看護学概論	必修
5	前期	基礎看護学Ⅴ	必修	14	前期	在宅看護学概論	必修
6	前期	成人看護学概論	必修	15	前期	国際看護学	必修
7	前期	成人看護方法論Ⅰ	必修	16	前期	看護研究入門	必修
8	前期	成人看護方法論Ⅱ	必修	17	前期	医療英語	必修
9	前期	成人看護学演習Ⅰ	必修	18	後期	疾病論Ⅲ	必修

19	後期	疾病論Ⅳ	必修	24	後期	在宅看護方法論	必修
20	後期	老年看護方法論	必修	25	後期	医療安全論	必修
21	後期	小児看護方法論	必修	26	後期	緩和ケア論	必修
22	後期	母性看護方法論	必修	27	後期	日本国憲法	選択
23	後期	精神看護方法論	必修				

※全 27 科目（科目区分順）

■ 第 3 学年

No.	学期	科目名	区分	No.	学期	科目名	区分
1	前期	公衆衛生学・疫学	必修	12	前期	在宅看護学演習	必修
2	前期	保健統計学	必修	13	前期	医療情報論	選択
3	前期	看護倫理学	必修	14	前期	先端医療論	選択
4	前期	成人看護学演習Ⅱ	必修	15	前期	災害医療論	選択
5	前期	老年看護学演習	必修	16	前期	保健医療福祉行政論	選択
6	前期	小児看護学演習	必修	17	前期	助産学概論	選択
7	前期	母性看護学演習	必修	18	後期	公衆衛生看護方法論	選択
8	前期	精神看護学演習	必修	19	後期	公衆衛生看護展開論	選択
9	前期	地域看護学Ⅱ	必修	20	後期	助産診断技術学Ⅰ	選択
10	前期	地域看護学方法論	必修	21	後期	助産診断技術学Ⅱ	選択
11	前期	地域看護学展開論	必修	22	後期	助産診断技術学Ⅲ	選択

※IPE 関連科目を除く全 22 科目（科目区分順）

(2) 「学生による教員に関する評価」

各教員が「学生による教員に関する評価」の実施主体者となり、令和元年度に看護学部第 2・3 学年で開講した授業科目において、42 名の教員が実施した。

＜内訳＞ 看護学部専任教員・・・・・・・・・・ 27 名
看護学部以外の本学専任教員・・・・・・・・ 12 名
非常勤講師・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 名

(3) 「学生による臨地実習に関する評価」

各科目責任者が「学生による臨地実習に関する評価」の実施主体者となり、令和元年度に看護学部第 1・2 学年で開講した全ての臨地実習科目で実施した。（第 3 学年で開講した臨地実習科目については、年度をまたいで実施するため含めていない。）

No.	学年/学期	科目名	区分
1	第1学年/後期	基礎看護学実習Ⅰ	必修
2	第2学年/後期	基礎看護学実習Ⅱ	必修

3. 回答および集計方法

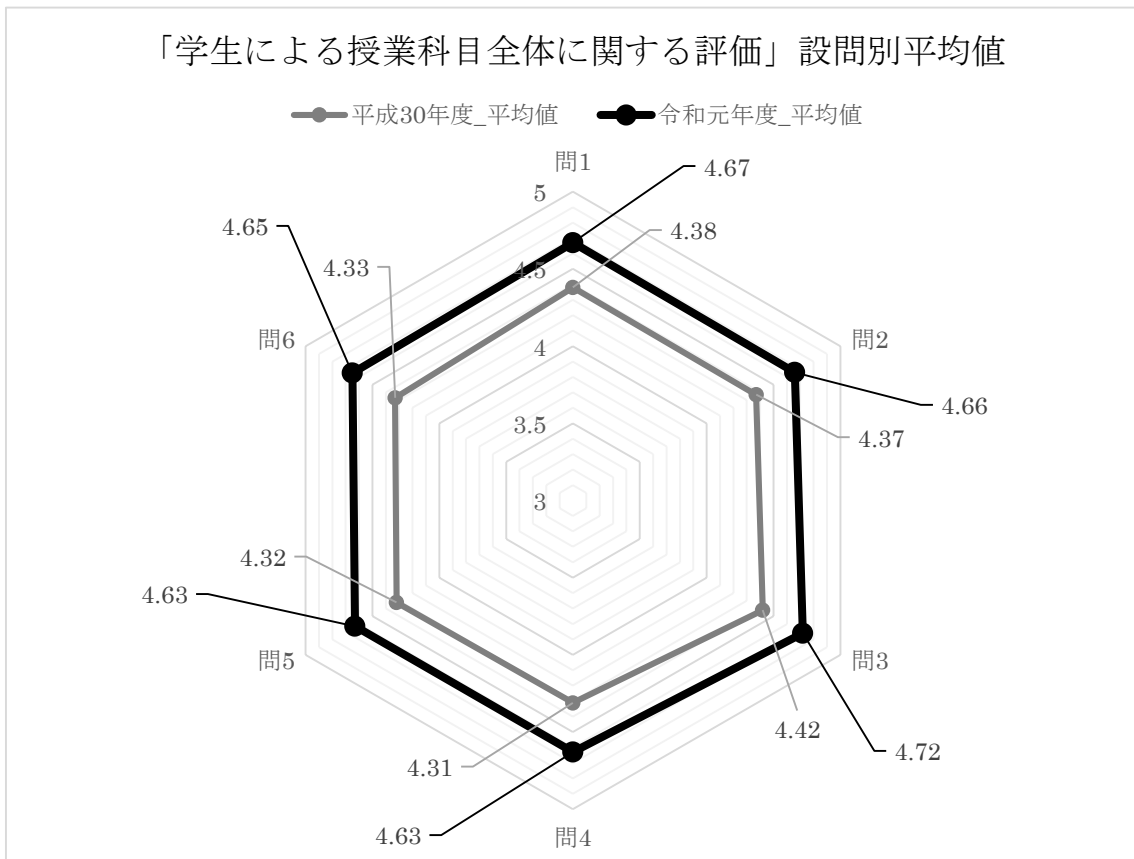
学生は、授業評価の各設問（マークシート形式）および自由記載欄について、以下の5段階および記述により無記名で回答を行い、記入後の評価用紙は、学生個々が教室内の回収箱に直接提出した。教務課は、提出された評価用紙を回収し、設問項目毎の単純集計ならびに自由記載欄のコメントの転記を行い、各実施主体者に集計結果を通知した。

1	2	3	4	5
全く思わない 非常に悪い	あまり思わない ←	どちらともいえない	やや思う →	非常に思う 非常に良い

4. 集計結果

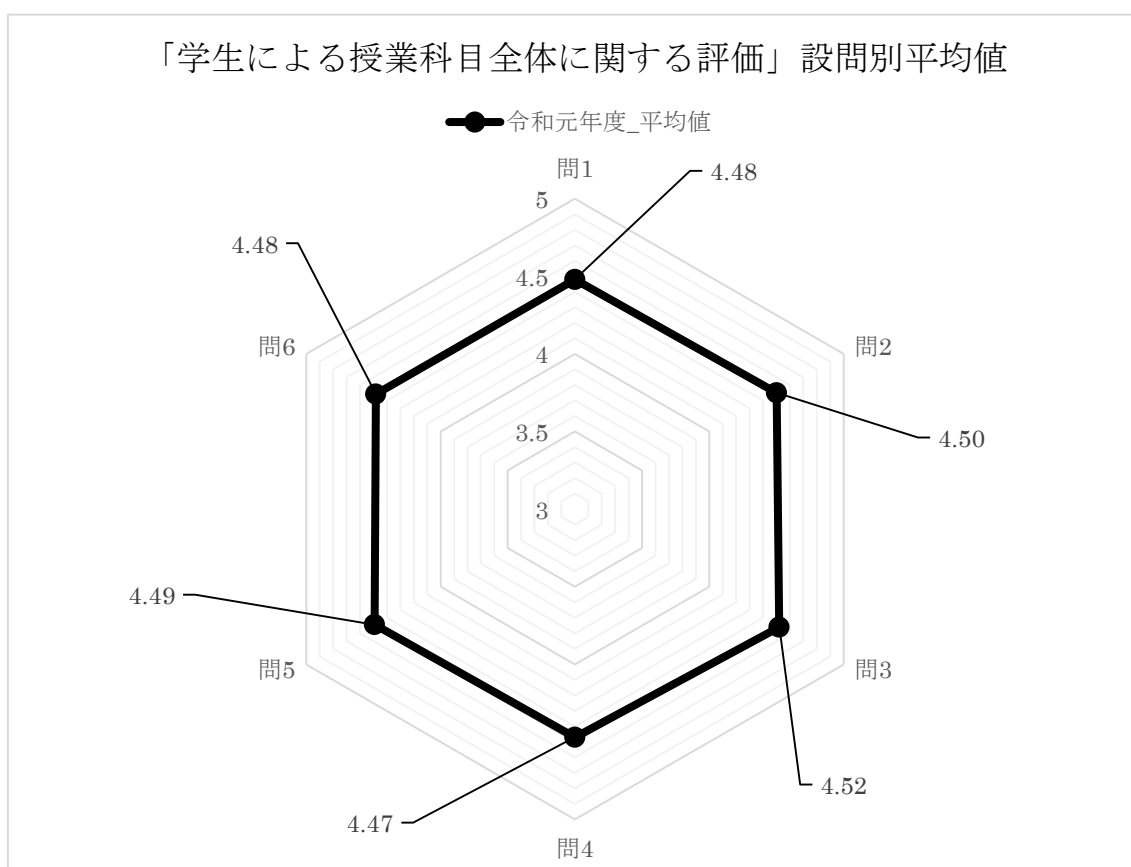
(1) 看護学部第2学年で実施した「学生による授業科目全体に関する評価」(全27科目)

	設問	平成30年度	平成30年度	令和元年度	令和元年度
		平均値	SD	平均値	SD
問1	授業は理解しやすいように順序立てて組み立てられていた。	4.38	0.28	4.67	0.19
問2	教材(教科書・配付資料等)は適切であった。	4.37	0.29	4.66	0.20
問3	シラバスに記載された授業内容・到達目標は適切であった。	4.42	0.26	4.72	0.14
問4	学修意欲が刺激される授業内容であった。	4.31	0.32	4.63	0.22
問5	自学自修の時間を確保できる授業スケジュール(授業の間隔、組み立て等)であった。	4.32	0.31	4.63	0.21
問6	科目の総合評価を5段階(非常に悪い1~5非常に良い)で示してください。	4.33	0.32	4.65	0.20



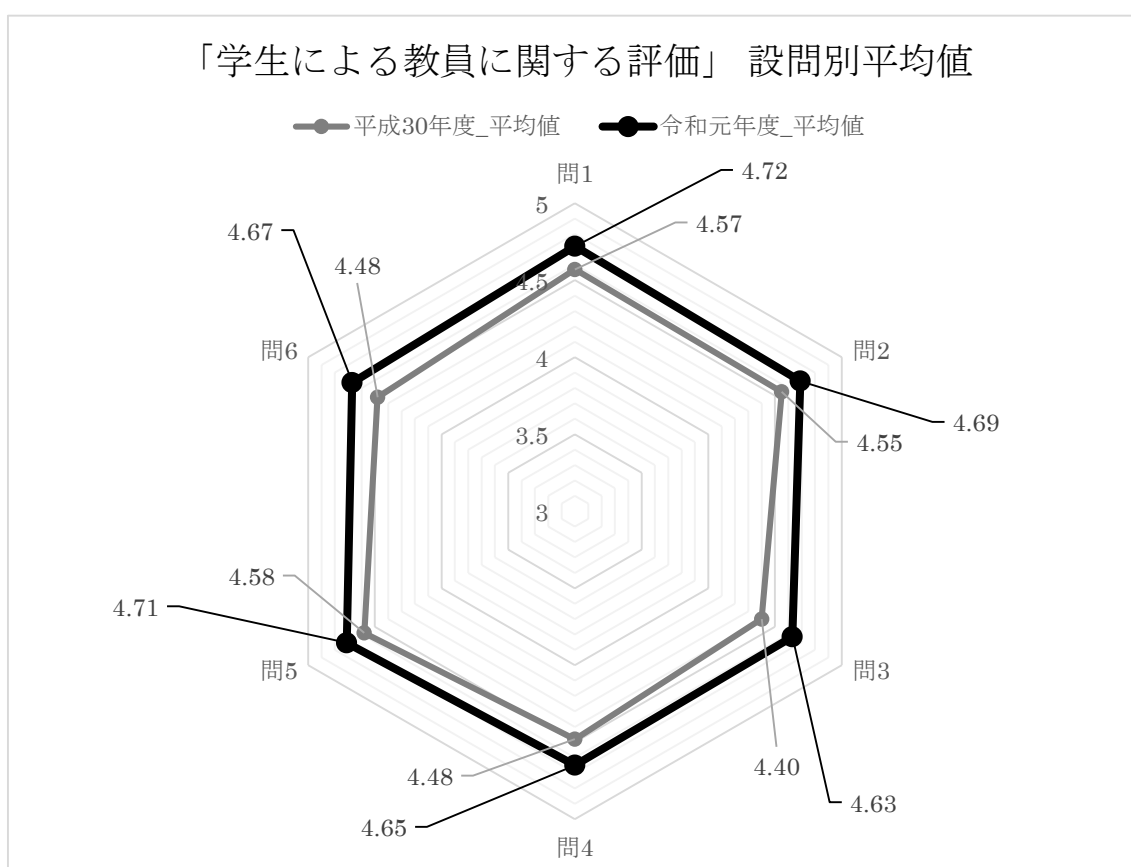
(1) 看護学部第3学年で実施した「学生による授業科目全体に関する評価」(全22科目)

	設問	令和元年度 平均値	令和元年度 SD
問1	授業は理解しやすいように順序立てて組み立てられていた。	4.48	0.43
問2	教材(教科書・配付資料等)は適切であった。	4.50	0.41
問3	シラバスに記載された授業内容・到達目標は適切であった。	4.52	0.37
問4	学修意欲が刺激される授業内容であった。	4.47	0.46
問5	自学自修の時間を確保できる授業スケジュール(授業の間隔、組み立て等)であった。	4.49	0.40
問6	科目の総合評価を5段階(非常に悪い1~5非常に良い)で示してください。	4.48	0.45



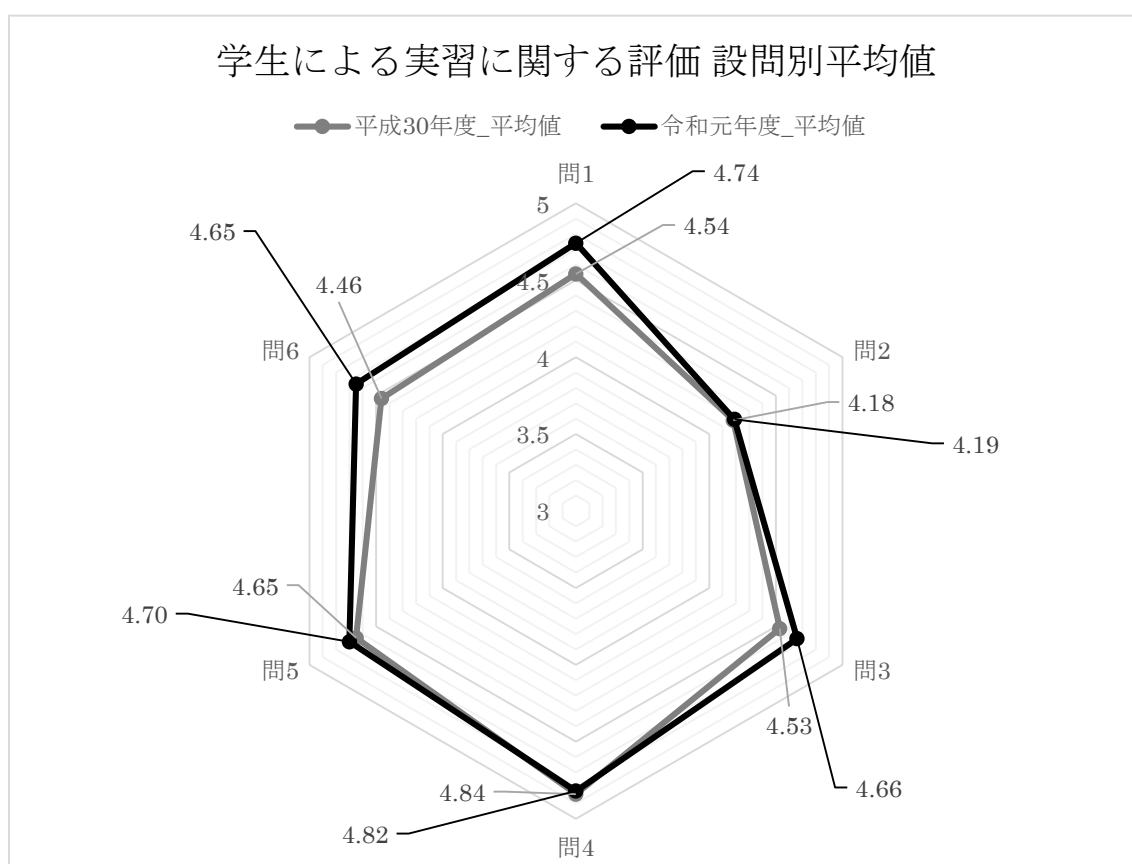
(2) 「学生による教員に関する評価」(平成30年度:教員33名 令和元年度:教員42名)

	設問	平成30年度 平均値	平成30年度 SD	令和元年度 平均値	令和元年度 SD
問1	授業はシラバスに沿ってよく準備されていた。	4.57	0.24	4.72	0.17
問2	授業は時間(開始・終了時刻)通りに行われた。	4.55	0.27	4.69	0.23
問3	授業の内容(分量・難易度)は適切であった。	4.40	0.36	4.63	0.25
問4	質問の機会(授業時間内外問わず)が設けられていた。	4.48	0.30	4.65	0.23
問5	授業に対する教員の熱意が感じられた。	4.58	0.26	4.71	0.22
問6	授業に対する教員の総合評価を5段階(非常に悪い1~5非常に良い)で示してください。	4.48	0.34	4.67	0.24



(3) 「学生による臨地実習に関する評価」(全2科目)

	設問	平成30年度 平均値	平成30年度 SD	令和元年度 平均値	令和元年度 SD
問1	実習を円滑に行うために、オリエンテーションは役立った。	4.54	0.01	4.74	0.19
問2	自学自修の時間を確保できる実習スケジュールであった。	4.18	0.06	4.19	0.06
問3	シラバスや実習要項に記載された内容・到達目標は適切であった。	4.53	0.09	4.66	0.21
問4	グループの学生同士、協力して学修できた。	4.84	0	4.82	0.11
問5	看護職を目指す意欲が刺激された。	4.65	0.08	4.70	0.12
問6	実習の総合評価を5段階(非常に悪い1~5非常に良い)で示してください。	4.46	0	4.65	0.23



5. 各授業評価における上位3科目および上位3教員

(1) 「学生による授業科目全体に関する評価」

順位	学年/学期	科目名	授業形態
1	第2学年/前期	基礎看護学V	講義・演習
2	第2学年/前期	母性看護学概論	講義
3	第3学年/前期	母性看護学演習	講義・演習

(2) 「学生による教員に関する評価」

順位	教員名	担当科目
1	野里 同	基礎看護学V
2	佐藤 奈美枝	成人看護学演習II
2	藤澤 純子	成人看護学演習I

(3) 「学生による臨地実習に関する評価」

当該授業評価の上位3科目については、一部の専門領域の臨地実習が年度をまたいで開講するため、全ての評価が出揃った後、公表することとしている。

以上